

インフラ投資で世界の航空大国を目指す中国

いま中国では、旅行者が増えています。2011年2月2日から8日の「春節（旧正月）」の連休期間、中国最大の北京首都国際空港の旅客数はのべ100万人を超えました。2010年全体では旅客数は7000万人を超え、なんと世界2位に。

また、中国全体としても旅客者が増加しています。2010年の民間航空の旅客数は2億6000万人を上回り、2011年にはさらに3億人に届くと予想されています。

その背景には、近年の経済成長に伴う国民の生活水準の向上や、日本のビザ発給条件の緩和をはじめとする各国の中国人観光客の取り込み政策などがあげられます。

このような旅客数の急増を受け、中国政府は2011年から2015年までの5年間に1兆5千億元（約19兆円）にもおよぶ大規模な航空分野へのインフラ投資を発表しました。2月25日付の日本経済新聞によると、中国は民間空港を「今後の5年間で45カ所建設して220カ所まで増やす」とのこと。また、航空機については「2400機増やし5千機体制にする（同紙）」そうです。

空港建設をすすめることで、地方経済や観光業の発展など国内経済の活性化も期待されています。「日本航空機開発協会によると、今後20年間で航空機需要が最も伸びるのは中国で、約20年後には米国に次ぐ世界2位の航空大国になる見通し（同紙）」だとか。

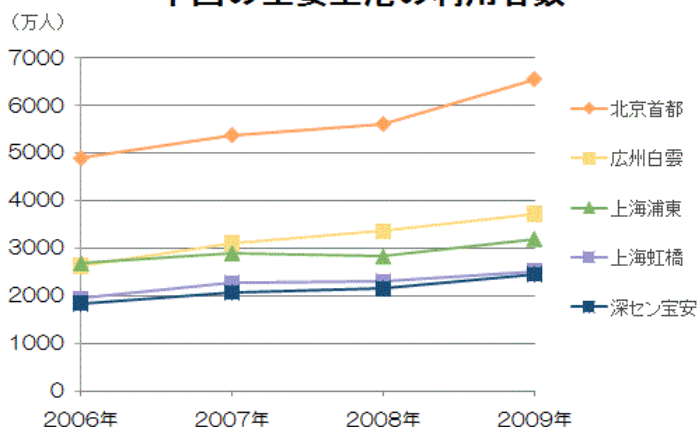
2010年にGDPが世界第2位となった中国は、航空分野でも世界第2位になれるのか？これからも目が離せません。

中国民用航空の旅客運輸量推移



(出所) 中国民用航空局

中国の主要空港の利用者数



(出所) 中国民用航空局